

渡鹿7丁目バス亭待合所のデザイン設計コンペ

FOCUS ▶ K

住宅設計の(株)グランアーキテクト(熊本市中心区渡鹿7丁目、浦広志社長)は、同社敷地に隣接する渡鹿7丁目バス停の待合所をデザインする設計コンペを実施した。2月1日、寄せられた企画の中から最優秀賞を選んだ。受賞者がデザインしたバス停待合所は今後、同社が現地に施工する。

住宅街に面する同社の目の前の渡鹿7丁目バス停は、バスを待つ住民でにぎわいを見せる一方、待合所が狭く、雨天時などは同社が事務所をバス利用者向けに開放することもあったという。そこで、事務所敷地の一部



浦 広志
社長

グランアーキテクト

をバス待合所として提供・デザインしよう」と企画コンペを実施。若い感性を生かして、建築・設計士を支援しよう」と参加資格を35歳以下としてコンペを募った。その結果、大手設計事務所や社員など全国から87件のエントリーが寄せられ、37件の提案がなされた。浦社長は「多数のコンペサイトに掲載され、口コミでも広まった結果か、予想以



▲渡鹿7丁目のバス停。左側の現在駐車場の土地に待合所を設置する

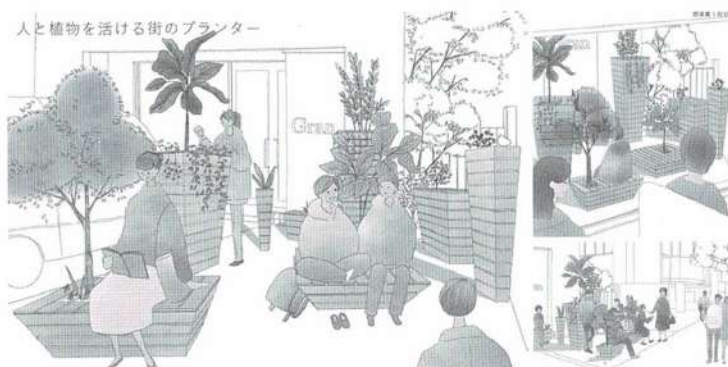
上に多くの応募がありうれしく思う。設計事務所がこのようない地域貢献コンペを実施することは珍しく、さまざまな方面から高い評価をいただいた。若いクリエイターに伸び伸びと自分らしく企画を考えてもらえたのではないかと話す。

1月末に応募の中から、コンセプトを理解しているか、デザイン性に優れているかなどを審査し、最優秀賞を狩野翔太さん(株)彦根建築設計事務所・東京都)と白馬千聡さん(日本女子大学・東京都)による「人と植物を活ける街のプランター」に贈った。また、優秀賞に高橋海さん(建築設計事務所所属)と前田真実さん(内装設計会社所属)の「待ちかたの更新」、鍛田ひかりさんの「Ribbon」を選んだ。浦社長は「皆さまの作品を拝見したが、バス停をより多くの方に快適に過ごしてもらおう、というコンセプトに沿った内容のもので、実施面、施工面も考

慮されている作品が多く、どれも素敵なものだった。土地を提供下さるオーナーさまにも感謝したい」と笑顔を見せる。狩野さんと白馬さんの作品は早ければ6月に施工に着手し、9月にも完成する予定。費用は同社(一部協力業者)が負担する。

同社は2019年7月設立。資本金は500万円。渡鹿の熊本スタジオのほか愛媛県松山市に松山モデルハウスを構え、住宅、店舗の設計を主業務とする。

(米村俊彦)



▲最優秀賞を受賞した狩野翔太さん、白馬千聡さんによる「人と植物を活ける街のプランター」